

道彩会の絵を見る楽しみ

道展会員
グループ環代表

中 吉 功

第40回記念道彩展 コロナ禍の中、苦難を乗り越えての開催、心からお喜び申し上げます。皆様方のお喜びと感動も一人のことと思います。私は子供のころから絵を見たり描いたりすることが大好きでそれが数十年今まで続いています。そして、今から数年前に道彩会の展覧会を鑑賞する機会を得ました。その時受けた新鮮な驚きと感動、楽しく嬉しい気持ちは今も変わりなく続いています。

また、毎年の本展や会員、会友展を鑑賞することを大変楽しみにしています。会場にはいつも鑑賞に程良い大きさと作品数が整然と陳列され見る人を迎えてくれます。いつも気持ちの良いとても見易い会場です。

作品はいつも多彩な表現と自由に伸び伸びと描かれている作品が多いように思われます。そして、色彩の豊かさ、感覚の良さが心に響く作品も多く心豊かに楽しませてくれます。風景、静物、人物、具象、抽象いろいろまさに北の彩りの道彩会です。

会の規約に謳われている多様な表現と創造的な作品の追求が、作品に反映し、見る人の心に感動を与え続けているのだと思います。

そして、写生会、研究会、会員、会友展の開催、機関誌の発行を長年に渡って続けられてきたことに敬服いたします。絵を描くことはまさに実技の実践と継続、研究に依ることが大きいと思います。早くから会の方々が力を合わせて実践されてきたことが今花咲き実を結び会は発展してきました。しかし、コロナ禍で世情騒がしく平穏の日々の来る日が待たれますが、継続は力なりを信じ、こんな時こそ制作に打ち込み、展示する事が人々の心の灯となり自身の心の安らぎともなるのではないのでしょうか。

道彩会の益々の発展をお祈り申し上げお祝いの言葉といたします。